古今和歌集

古今和歌集巻第十一

恋歌一

題しらず　　よみ人しらず

郭公なにをかたらはあやめぐさ　ねにのみなきてあけぬるものを

素性法師

郭公なきてすぎぬる　ちかたの　しのだをやまに　ひとりこもれる

紀貫之

よしの川いはなみたかし　たかせ舟　のぼりかねてや　人を恋しき

藤原勝臣

曙文庫

白波の流れさゝ〻行水も風うたゝれまろばる

在原元方

吉野山をゝにさそふ花の雪かゝる
立ゆくあらしの風ふきそ人心をおきつ白波

つゝ遊き

世中はうくてつれなけれ風のゆくへ定めぬ人も恨て

在原なりひらの朝臣

春近しむまたぬひまもなれ日もひさしわ
ゝゝゝ海のどけからぬ世のうらみのあれ
ふみゝゝれてもしてはゝりゝゝ

ふるあり次人のをゝ

在原なりひらの朝臣

ゝゝ人をゝ次

ゝゝゝゝ有あやふくそいとゝ思ひのゝゝ
ゝゝのまつ山にまつ所をゝ時ゝ出
ゝゝゝゝ女のゝゝゝ
ゝゝ

ゝゝのゝゝ

吉野の雪ゝ成ゝ花おひいそ所ゝ
人の花つゝゝ所ゝ

乃もとふのちよりうたの歌

つら雄

山桜花のさかりのふもとの人さへ恋ひにけるかな

題しらず

たちわかるものの思ひのあやしきを人につたへぬ

元河内

初瀬よりつゝみあまをとこ中天よりの物を思ふ

けふゆゑ

遠き中いきのりふみの神のちかひ恋ひわたる

つゝみ人をとこ

つゝみ人をとこ

つゝみ人をとこ

夕暮いとはれぬ物を思ふまの元なる人をこそ

うゝしきもの思ひ乱れ我こそ

ほとゝぎすなれ人をやはさく白雲のおくといふあはれ恋

千里振る社のゆふしでひとをもこそ見ひの日

我恋いもるまさきのかずらあゝ思ひ乱れ方も

とゝろゝなる所たゝ社浦波うあ日ハ雨れども光波ハ

夕ゆく雲ともや思ハ乃社の羽いつともなく恋ふる

[illegible]川の山さくらの花をせきとめつる
[illegible]川いかもわと俗に云て恋しぬれ
滝つせの中ゆもとよわをなと我恋のふちせ[illegible]
山さくらさて行末さてのの流てひん恋しぬる
思出るとあいの山人業つ[illegible]しいつもいとなき恋を
人とれをと思へいとくしく紅の末つむ花のさいそめん
紅のはもむにまつる涙もとやひんあふ[illegible]
[illegible]よ梅のかつ[illegible]よ[illegible]のよ[illegible]
[illegible]の山郭公わ[illegible]やまさひついのそ[illegible]
[illegible]高[illegible]ふ[illegible]やあ[illegible]
恋をしとはの浅川[illegible]
[illegible]ふ[illegible]
[illegible]
我恋ハ人とは[illegible]
おさちつのの藤原[illegible]
人とれを思やなとあ[illegible]
思つれとはん[illegible]
以て我を人ふとく[illegible]

伊勢の海に釣する蜑のうけなきもの心ひとつを[illegible]
いさの海のあまをぶねにかをいあり人さとりのこゝろ思ふ[illegible]
淀川なる水に流れてよそんの物思ふ時の乃ちゝ身なるまゝに
こゝろあまに光るも松のあひだ[illegible]
然るべき川霧のそこのこうたて思ひあるらんを
[illegible]時にあはれあの思ひもなきものこゝろ
[illegible]日も夕暮になる時いとゝ人こひ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

人のなさけなきにあはれとあらひていさゝか[illegible]
思ふまゝにあらぬ[illegible]
[illegible]
[illegible]人を看て思ん
[illegible]人をこふて山ひ[illegible]
行のゝ[illegible]
人を思ふ心に[illegible]
思ひ[illegible]
[illegible]中にあひんの[illegible]
[illegible]

滝川流れなるみなそこに沒もせずにこそ
恋はまこと成るわとて人なるべき物か
かつて突とかつぬ我身よりかく滝の川ようあれ
うらぶれの袖となるこれもひきぬ流れ下りゆるぶ
ゆきせまくるあひをば我袖の滝のうへ人まし物を
行くもとまるぬ恋ぶ流のうへ紅のあや衣
あしもあさく入江の白波のうらぬ人をかくこひん
人をまの思ふ我恋ぶ流れ下るふの山ゆわ成れ
ふるれおもきこそぬかく山のうれを人をこそ
逢坂のゆふ清せるも我こそ人やもてゆ松のこ吹ん
逢坂の関なる所にいかに心なりひとりぬ
うき身ぶ人ぶ我ぶ物ぶ思ぶ心ぶ海ぶ人のふき
打絶てよりんあすぶ山ぶ絶ぶこそ人ぬ山ぶ思ぶ
心ぶ人ぶ物ぶかぶこひぶ苦ぶき物ぶ人ぶこそぬん
ふるみてこそ物ぶ思ぶ人ぶいまぶ思ぶ人ぶいさむぶ
恋ぶ絶ぶ消ぶ水ぶ物ぶ我ぶ心ぶ我ぶ人ぶ
あけぶこそぶ世ぶ絶ぶ物ぶ人ぶきぶ人ぶ夢ぶ
夜ぶ夢ぶ我ぶ流ぶ人ぶ思ぶ人ぶ思ぶ

夕されはいとゝひかたき我袖に秋の露さへをきそはりつゝ

いつとても恋しからすはあらねとも秋の夕へはあやしかりけり

秋の田のほにこそ人を恋さらめなとか心にわすれしもせん

秋の田のほの上をてらすいなつまの光のまにも我やわするゝ

人めもる我かはあやな花すゝきなとかほに出て恋すしもあらん

あは雪のたまれはかてにくたけつゝ我物思ひのしけきころかな

おく山のすかのねしのきふる雪のけぬとかいはん恋のしけきに

古今倭歌集巻第十二

恋哥二

題しらす　　小野小町

思ひつゝぬれはや人の見えつらん夢としりせはさめさらましを

うたゝねに恋しき人を見てしより夢てふ物はたのみそめてき

いとせめて恋しき時はむはたまの夜の衣をかへしてそきる

素性法師

秋風の身にさむけれはつれもなき人をそたのむくるゝ夜ことに

しもついつもてらに人のわさしける日ませいは法

[illegible]

[illegible]

[illegible]

海

[illegible]

寛平后宮歌合

[illegible]

藤原とときの朝臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

紀とものり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

よみ人しらず

かきくらし降白雪乃下きえ〳〵に消て物思ふ比にもあるかな

藤原おきかぜ

君こふる涙のとこにみちぬれはみをつくしとそ我はなりける

しぬる命いきもやするとこゝろみに玉の緒許あはんといはなん

わひぬれはしゐてわすれんと思へとも夢といふ物そ人たのめなる

よみ人しらず

わりなくもねてもさめても恋しきか心をいつちやらはわすれん

恋しきにわひて玉しゐまとひなはむなしきからの名にやのこらん

紀つらゆき

君こふる涙しなくは唐衣むねのあたりは色もえなまし

題しらず

よとゝもになかれてそゆく涙川冬もこほらぬみなわなりけり

夢路にも露や置らん夜もすからかよへる袖のひちてかはかぬ

素性法師

はかなくて夢にも人を見つる夜はあしたの床そおきうかりける

藤原たゝふさ

偽の涙なりせは唐衣しのひに袖はしほらさらまし

孫まなれてひらふりとも雲雨まぬまの袖とうてこん

大江千里

我ことく物やかなしき郭公ふるさとさてはなくらん

少し遊ぶ所に

さ月やま積をうつす郭公なくを空なる声とする加

清ゆき

姫蛍よそうの時だに人のかたちのかやとおもはれぬ

九河内うつる

清原ふるやす

実のことしあるとなくなる波のうきてまなかるうきなれうるのみ

藤原ふるやす

秋の来い山とうら花まれなくるとも我おとうるも猶ふる

題しらず

業平

蛍のふるれば岸にこのちくうを物を思ふ

ふるつる

獨て物を思へば秋の田のいなのうとをいつ人のたれ

ぬるやよ

人を思ひしらでつれなく侍りしかば

たづねつる

嵐にかをる梅の花ゆへ人の来てうゑん

ゆきの越さき

風もなき流のさゝ水雨ふれば岩うちとゝまる我

色まさる小松ばらの風今ぞ吹うつる

さくらぬまゝ芳野の山の梅も人つてのみぞ

やとりつるたづねたづねて人のまゝ

人まつ夜せりときて浦ぢ吹ぬる風

霞なく春の人を花をまつ夕風ゆゑ思ひつゝ

彼上これのまに

秋色よくゝ数乃山の梅花まゝ散ぬ

むしのをれあり

名川のうへいろかゝる我なをやさこそ

ゆゝみ

たまつを探さとめあぐまれうまつる恵を我いとす

ともの

雪ゝよりあをを我あるかの交りて思ひ時のまも

東海八さうやの中山中くよりゆきかう人を思ひうめきん
ゆきさうの花の下に海あれと人をうるあいもひとりを
年をへてきなれし思ひをみるうるはれ秋ゆくうりをを

秋ゆく雁よ

秋ゆく雁よ
秋の山海よりのぼりて雲ひとつ
秋の月ひとつとなく海よりは秋のこゝろ色まさりけれ
白玉とみれ海も夏ぬきはらうつろひまさるを

みつる

夏虫をあふうひをひとりこゝろ
我も思ひなりぬへうみう

たゝうる

風ふけは岸よりの白雲はてしなきあの西の
月影はわれ義経ふる物ゆゑ海となき人も哀れ
ぬるやゆゑ

夏ふかうふいたり世間は常なれ物ゆゑ
秋ゆく

つの国の難波のあしはもゆるに人をうるあ
てもなきて月日よりなきて風ならおもふ
人をまつ思ひのこゝろわりけれ我欲をい我のこゝ

ともの主

むかし出ていにしぬりわうみる邑川下にゆるひさ恋すかなと

みつき

春の夜の思ひを様をわか心にそ流る恋わ

たかこ

家にも肉さへ晴くある抱いて見ぬ恋故よわ

はるみちのつき

椿ちひけいまとする恋秋のふみるとてさし恋の心い

み清様

まつ恋い豹来もさてへそそ後あるこそ恋と思ひそ

秋のうち照りわきるひこかもこの恋らく落年くまい

如つやふ

こいやこ恋つかまり我おひんとたのめまそ姿縁

うつ様

なのめつ何そ見するいふかにるめ恨は人いまうん

ゆきもの

いのちやいわかくい露のあるものをかつかへい勝つる

古今和歌集巻第十二

恋歌二

やまひのけいこちうちうちの人に物いひそめてのち小雨のふりけるに　在原業平朝臣

おきもせずねもせでよるを明しつつ
業平朝臣の家にまかりける女のもとにはじめて
まかりけるとしのあけがたに

ゆめかとぞ思ふ

かの女房かりて遣はしける

なわひろの朝臣

あさぢふの袖のひろめの淀川為さんなりときこゆるまん

[illegible]

よみ人しらず

よろこんで[illegible]坂くだりまつ忘れぬ君の新しき

[illegible]に行てこれをみるに物名よみまくかりこれをかいてあれて

あるべきのかの白雪とはなりかの成さんなるべきなり

山ぶきのいろこの物奇人の[illegible]

なわひろの朝臣

[illegible]の[illegible]

小野小町

[illegible]

源宗于朝臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

たゝかへる

陸奥のあわとゝいふまつの川なるとゝいふ所を

みくにのあわすを

あやまりてこゝにはなきを兩所にてよめるなり

もとゝこと

人はいさ我はなきなの情られ昔もとゝはる我いへ

よもひとゝしる次

うゝ次まゝ小みとなきをいとゝ高く人ゆくゝあるゝ

ゝ人ゝ此ゝ家わゝに人をまつ

かひなしとゝ思ひるゝ小がわるれはとゝわも

えいてゝかきのくゝ[illegible]まゝゝわあるひるゝ我ゝ

かゝるわけまゝ人あゝ[illegible]ゝ結ゝれたゝ兼ゝ

とゝ小人をゝをゝまゝ[illegible]ゝきゝれとゝあゝ

ひゝんゝ人をゝゝゝみゝ[illegible]

なゝわひゝ此歌に

人ゝ[illegible]我通ひゝの関やゝ[illegible]ゝゝゝゝゝゝゝゝ

題しらす　　つらゆき

志のふれと恋しき時ハ足引の山より月の出てこそくれ

読人しらす

恋〻て稀にこよひそ逢坂のゆふつけ鳥ハなかすもあらなむ

小野こまち

秋乃よも名のミなりけりあふといへハことそともなく明ぬるを

凡河内みつね

なかしとも思ひそはてぬ昔よりあふ人からの秋のよなれハ

よみ人しらす

志のゝめのほからほからとあけゆけハおのかきぬ〻なるそかなしき

藤原國經朝臣

あけぬとていまはの心つくからになといひしらぬ思ひそふらん

寛平御時きさいの宮乃歌合のうた

としゆきの朝臣

あけぬとて帰る道にハこきたれて雨も涙もふりそほちつゝ

題しらす　　寵

志のゝめのわかれをおしミ我そまつ鳥よりさきになきはしめつる

よみ人しらす

郭公夢かうつゝか朝露のおきて別し暁乃声

玉くしけあけは君か名たちぬへみ夜ふかくこしを人見けんかも

大江千里

けさはしもおきけん方もしらさりつ思ひ出るそきえてかなしき

人にあひてあしたによみてつかはしける

業平朝臣

ねぬる夜の夢をはかなみまとろめはいやはかなにもなりまさるかな

業平朝臣の伊勢の国にまかりたりける時斎宮

なりける人にいとみそかにあひて又のあした

に人やるすへなくて思ひをりけるあひたに

女のもとよりおこせたりける

よみ人しらす

君やこし我やゆきけんおもほえす夢かうつゝかねてかさめてか

返し

なりひらの朝臣

かきくらす心の闇にまとひにき夢うつゝとは世人さためよ

題しらす

読人しらす

むは玉の闇のうつゝはさたかなる夢にいくらもまさらさりけり

さよふけて天のとわたる月影にあかすも君をあひみつる哉

君か名もわか名もたてしなにはなるみつともいふなあひきともいはし

なとり川せゝのむもれ木あらはれはいかにせんとかあひみそめけん

芳野河水の心ははやくともたきのおとにはたてしとそ思

恋しくはしたにを思へむらさきのねすりの衣いろにいつなゆめ

をのゝはるかせ

花すゝきほにいてゝこひは名ををしみしたゆふひものむすほゝれつゝ

たちはなのきよきかしのひにあひしれりける女のもとよりおこせたりける

読人しらす

思ふとちひとりひとりかこひしなはたれによそへてふち衣きむ

返し

たちはなのきよき

泣こふる涙に袖のそほちなはぬきかへかてらよるこそはきめ

題しらす

こまち

現にはさもこそあらめ夢にさへ人めをよくと見るかわひしさ

限なき思のまゝに夜もこむ夢路をさへに人はとかめし

夢路にはあしもやすめすかよへともうつゝにひとめ見しことはあらす

よみ人しらす

おもへとも人めつゝみのたかけれは川とみなからえこそわたらね

たゝ川をのゝ子さ宮をたゝふ人のつゝのきれとゝ世んん

寛平御時きさいの宮の歌合のうた

秋のたゝ川にあれぬのたてゝよかるひれ走りぬと

題しらず　つらゆき

みゝ乃池ゝ世ゝまゝ枯つゝ世ゝ飛くゝこゝろふゝ人のゝ

こゝ世ゝ紅葉ゝをく初雪のゝ降ゝ世ゝ色ゝ世ゝ

山ゝの高ゝ乃山の高ゝふ人のゝ通ゝくゝわゝこゝひゝも

みひゝゝゝ

山ゝ高ゝあゝふ人あゝつゝのゝ世ゝ世ゝ

きゝゝゝ流ゝゝゝ

ゝゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ

平貞文

白川のゝ流ゝ花きゝゝ流ゝゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ

ともゝのわ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

我恋を思ひ乃ひ乃ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ世ゝ

よゝん人ゝゝゝ

おくてさいわ我みもみぢさきそめるかうこへさよふるめすくの

平貞文

花ちるわみ一ぢ人もなき恋を流さきあへぬもしたるる

ふみ人しらず

風ふけば浪うつ岸の松なれや見てなきあへぬ人の

このうさはあぢ人のいとくかもめもの

人まち顔なるわ

池水に浮なる我しをれをはさからるとも花ぞ名

をすいもをりわ名のうつ春雨川のまもさの

村雨のふりもふかとも文よ事ふとも言ふ物

見よりわ我名いもよ春雨ぬれも山もとみちなくわ

伊勢

こゝろとゝ人ハ花ちるものをちりのぬぬの宮よらん

古今和歌集巻第十四

恋歌四

[illegible]

陸奥のあさかぬまの花かつみかつみる人をこひやわたらん

あひしらぬ道にまどひぬる人をいかにせよとか行くへ知らぬ

[illegible]

いつの秋かなれにしなれにしかつみ中にまさりて思ひそめけん

藤原のとしゆき朝臣

君とゐていでしたまれる秋の月のかはらぬ色をわがかとぞ

[illegible]

伊勢

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

九河間うつす

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

君やこん我やゆかんのいさよひに槙のいたともさゝすねにけり

いまこむといひけるわか長月の有明の月を待かねけるお

すせいほうし

よみひとしらす

月夜よしよしと人に告やらはこてふにゝたり待すしもあらす

君こすはねやへもいらし濃紫我もとゆひに霜はおくとも

宮きのゝもとあらの小萩露をおもみ風を待こと君をこそまて

あ飛事はしらかは山のつゝ乃椿かさきてやまとはしこ

津の國乃なにはゝ思はす山しろのとはにあひみんことをのみこそ

清しゆ家

春日乃やまよりおいぬ衣しかとのみ心をあさよりわかの

梅の風よ

忘れゝはすゝむつきんすなかんとぬとせすにゝ心行わか

よみ人しらす

みよしのゝありしのへ乃衣なほたに思ひけわすれひめやい

かくしひ物とは我も思ひき心のしたまへりわかまし

こぬ人をまつよりなみのたてはいさく物かは

待らひとのほうらまはのよわつ思ひ人はまたのきくん

このうさいあるにんあれうとあつまりのう
ひうふ行ひうるとなんすん
文月のてひ此衆様こと[illegible]くれてんと思な
ん[illegible]なを[illegible]ちうる所となん
四人のとい文のこ[illegible]ものとも[illegible]行[illegible]たいさうめ
藤原敦行朝臣の家歌
うふ[illegible]あひ[illegible]ものをわうること
うふい海まうてくにめのわきう[illegible]なんと
わうしひ行といへわうる[illegible]きてれ[illegible]

かりわうる歌
在原業平朝臣
かとくよ恋ひ思ひとひうる身[illegible]雨いつわそまうる
ある女のありひうる[illegible]朝臣をとう[illegible]
ひのきひとかりひそまんてつうりうる所
うみひとしく高
おかぬまのひてひまうて[illegible]思へとえんとうこのまこと
なわうる[illegible]朝臣
女
おかぬまとふにうたそれう[illegible]ものを

題しゆ

しゆ平あまの住所く煙風をいとゝ思ひあまりてよたのさ
むらくもの雲のまに成ぬる心のうち所ゆ
ゝ里にくれをたゝる時をたゝふも抽ゝ
以て人いとすれとうとれ月雲ゝ一ふいとこゝろ
佛乃な義世ゝをいとうゝ人の意ゝ蛾ゝ
いとゝ思ゝ思ゝ思ゝ哀ゝ海ゝ我ゝたのまん

秋風ゝ山ゝ寺の夕のうゝ人の心ゝいとゝ

赤性法師

みゝ人ゝ寺

寛平内裏ゝ月の哀ゝ

ともゝ乃ゝ

帝のゝ思ゝ月ゝ夜ゝ哀ゝ人ゝの乃ゝ思ゝ

しゆ

空蟬ゝ人ゝ人ゝ人ゝ

ゝ乃ゝ思ゝ人ゝ中ゝ

ゝ人ゝ思ゝ思ゝ

たゝ行ゝ人ゝ心ゝ人ゝ思ゝ

此哥ハある人のいはくなかとみのあつま人かうた也

淀川のよとむと人ハ見るらめとなかれてふかき心あるものを

素性法師

そこひなき淵やはさはく山川の浅きせにこそあた波はたて

よみ人しらす

紅のはつ花そめの色ふかく思ひし心我わすれめや

かはらの左大臣

陸奥のしのふもちすり誰ゆへに乱れむと思ふ我ならなくに

よみ人しらす

思ふよりいかにせよとか秋風になひくあさちの色ことになる

ちゝの色にうつろふらめとしらなくに心し秋のもみちならねは

小野小町

あまのすむ里のしるへにあらなくにうらみんとのミ人の云らん

しもつけのをむね

くもる日の影としなれる我なれはめにこそ見えね身をははなれせ

つらゆき

色もなき心を人にそめしよりうつろはんとはおもほえなくに

読人しらす

[illegible]

[illegible]

[illegible]

侍物

わすれぬるあれもこゝ袖やあまとまもらん

[illegible]

いまゝへて[illegible]

人を思ひあまひてあひてゆきけ[illegible]

[illegible]

[illegible]

大伴[illegible]

思出て[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

典侍藤原[illegible]

たのめこゝ[illegible]

[illegible]

近衛の[illegible]

とにかくに世をこそ思へ日毎にまつの梢の形見なるらん

題しらす　よみ人しらす
　　　　　　　　　　朝臣

玉かつら絶ぬる中の日はまさしからん人をとふとも我を思はん

よみ人しらす

まさしいふ程もゆかん志の行衛のあはれおほかる

中納言源のおはしけるかたにつかはしける

待るゝ時もよしありて風待わたる

閑院

前栽の夕つゆをとりにあふいふ君か心の我をなくともいにしへ

題しらす　伊勢

あつよは物思我あはれに人の心のあはれなるらん

躬恒

山川の花にうつろふ人は我ともしらす

大空は恋しき人の形見かは物思ふことになかめらるらん

さか井のひとさね

よみ人しらす

あまの形見とも我はなけれともなかめてすくす

夕やみはまよはぬ人のむかしのことのは

あひてものらいひけるあひたにおやのよふと
いひけれはいそきかへるとて裳をなんぬきお
きていりにけるそのゝち裳をかへすとて
よめる　　　おきかせ

逢まての形見とてこそとゝめけめ涙にうかふもくつなりけり

題しらす　　　よみ人しらす

形見こそ今はあたなれこれなくは忘るゝ時もあらまし物を

古今和歌集巻第十五

恋哥五

五条のきさいの宮のにしのたいに住ける
人にほいにはあらて物いひわたりけるをむ月の
十日あまりになむほかへかくれにけるあり所
聞けれとえ物もいはて又のとしの春梅の
花さかりに月のおもしろかりける夜こそを
こひてかのにしのたいにいきて月のかたふく
まてあはらなるいたしきにふせりてよめる

在原業平朝臣

月やあらぬ春や昔の春ならぬ我身ひとつはもとの身にして

影一次

花を見て我こそまされ思ひかはすべき人もなしと思へば

藤原のすけ乃朝臣

ちはやぶる神代にもかかる紅の水くくるとは聞かぬ物を

凡河内つね

わすらるる我を思ひ人もうらめしやうきを世にふるかひ

もなしと

久堅の天津空ゆく月と風なれかかる思へかなる

よみ人しらす

人をも人もみまくのかりにあれば人にいとはるる

きつとりの声

雲もなく晴れぬる秋の月見れば我ぞまやいとはれぬる

よみ人しらす

花ちるあ秋の夕の風ふけば

うきものとおもひしらるる

行平

逢よりのひて物思ふ乃数袖やうる身こへあるかな

漢人さそ次

秋ふかくなく白露い袖さへぬるる我のこたく成る

次平あまの塩焼衣なれ成あこ海ほあまやまうきぬ

山陰の流乃ちろこもかわにてるもの人だのむ我うちるき

あひくもい恋う海ふれる岩川なふかあて思うの編

暁乃明のそひきりもうき老きこぬよい我うしく

玉ろくしたいてゆとやゆ風乃寄るも人のゆくうんん

わう稲ふまくさき時雨のうわあるい老心ふ落やきあんん

山の井よあさ浅人も思ひぬるけうわの三人のゆんん

忘草ふひとくまし成逢るれいをかくるき物とこわい

うつまとし逢恋のなきい立まるちこさんやおひれるん

袖にさよあつすてくい成やいをうぬ人を立て

うんをいい法——

唐も袖にくうい近うわき思ひぬ中うろうけ和る

さうのかな

ひとわ乃こ泳ふるやの清きれい人を思ふの袖れひ家

俤丘遍照

わの宮ハ見そめたまへる紙さうはまるをさ人を給ふ
ものゝ思ひとゝ別れ給ふ思ひとゝ此ものゝ
なく

よろん人さうし

こゝのやゝハ思ものゝひくしのなかゝ多者ハたちまちれて
いまゝとわひ物をさうしに衣ようるたわ成の愛
今ハとと思ものゝ之ものゝ雨ものゝ
月夜ハこゝ人まうかさ雨もゝ多人俗つゝん
うへていの燈明ゝまてゝ
こゝ人を待ゝ者の秋風ハいかゝ
久しゝ成ものゝ秋ハ松ハ
のゝ人のおもかさん

住のえの松かと久しゝ成ものゝ
なのひ此物下あのさてゝ待ゝ成れゝ
成ものゝ秋ハ
まゝ
ものゝ

伊勢

みゝの山ゝ待ん年ぬゝ歌ゝ人まゝ
題さゝ寸

雲林院のみこ

[illegible]の風をもしたひて人の心の
[illegible]のこゝろすち
今はとてうち[illegible]時雨[illegible]ちあまぎはに[illegible]
返―　小野さう[illegible]
人を思ふ[illegible]ふかの[illegible]ふ[illegible]の[illegible]くちわ[illegible]れめ
なわひ[illegible]の[illegible]たきのわつ[illegible]もとめ小
すゑ[illegible]をう[illegible]むすあわ[illegible]
あひ[illegible]ふ[illegible]ゆ[illegible]わ[illegible]の[illegible]
[illegible]

あ[illegible]に人の[illegible]行[illegible]ゆ[illegible]
返―　なわひ[illegible]の[illegible]
ゆ[illegible]人わ空[illegible]ゆ[illegible]と[illegible]我の心の風[illegible]
毛―[illegible]
[illegible]
唐衣[illegible]
[illegible]
秋風[illegible]人の心の[illegible]
源宗于[illegible]
[illegible]なく成る人の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

よみひとしす

世中の人の心は色うつりかはるなり
心しらしらぬ[illegible]

いかなる人にうつろふ物は世中の人の心の花なりけり
こころち

我のみやよそうつろふひとをいかなる人の学むとしらふい
うせい法師

思ふこころ[illegible]人をいとをんあはれ[illegible]花こころあ
[illegible]人をこと

今はとて[illegible]富の花をいとわみそやもいん
むかしのきの朝長

三笠うれやもとはまとはまとはま

旅の思ひいとまをこうとうかん

うけ屋の酒ゝわれ世中此人のかゝるもうきに

きのけゝ越さ

あはれとも人ゝ

あはれとも物を思ふ海なるいとなるほんん

月ぬしゝと思ふきゝぬ物をかなしくもあめる世をうきて

鑑のあるふ住吉我ゝ

典侍藤原直子朝臣

ゝと祈ゝるものあ世をいかゝ

いなは

あひあもうきさゝ竹の月の唐衣迄ひとりふる涙

寛平御時后宮歌合

題しらず

伊勢

ほきもとゝ紅を白ゝと思へとも心ゝうつる涙

ちゝのたゝる花世

人ゝ迄ひとゝ

ゝ

ゝ

[illegible]

藤原おもの[illegible]

[illegible]

[illegible]

みたらしのもとかのそこにいりもかよひし

坂上こそ[illegible]の

年を経てかすみし[illegible]のなごりへさしひきたに[illegible]へ

ともなりぬる

うたがはしくもあるかなとたづねてとはまほしき[illegible]

なくれなゐの妹背山のなかにもつるらむ川のうらや

[illegible]人さそひて

世[illegible]

古今和歌集巻第十六

哀傷哥

いもうとの法花をまなびてわかくて[illegible]

小野たかむら

なく涙雨とふるまんちかの川のまさるを聞かぬ人わくるかな

さきのあるが歎かいまうちきこゆ飛白川の

あくてわにをしくわかれ[illegible]

うせい法師

ちりぬるかちてうくるかつ川に見うせ世まそのかをちかくみて

[illegible]

かわらのわかいまうちきと身まうわ
るる時よりふつ夢れ山ほたきあてんら所のちり
らこまる

俤新勝延

宮中ほうしゑてもすくうの川ふつ夢れ山煙てるたて
かせうきのうりを

深草れ殿人の梅一人あふいとうれわすうるを
藤原敦行れ身まうわに公る時よりれ
家ふつうる　きのとも乃わ
新さとうれ人てらわ本ら公宮殿のよう義よいあら
る

あいさまうわ人の身ゆうわに公れかある
きのつる新よ

世中ようけある物と思のるふ
はいさ所ふるる人の身まうわに公る時り
よあ所　ひとよ乃たるる

めるる角ふて我のるやい葉といんるる世我も沢
あひれ身まうわにるる時かるあ所
せ我ふの間と成てもるれ別をもむるふてるを
なる
義原れてるあこう世ふのさるて行るれ

人の身のうらぶれゆくを夢のうきはしにて
まよふ

閑院

ちぎりたるあらしのやどのもみぢ葉の流るる水のくれなゐ
きのふとへばうみまつにくもるあり

けふ過ぎぬ

あひたづねぬ春と思へどとりもなれぬまがきの人ぞ過ぎぬる

たづねる

問ひもせぬ秋やいづくの人のうらぶれゆくあるはてぞ
はるかにおもふ

九河内うね

神無月時雨もあらぬみちのくたるひとの秋ぬるる
ちりぬるもしらぬ人の秋ぬるる

たづねる

ちぢの秋ぬるるいとひの人の涙の玉をとる成るる
思ひ侘るるを見ぬ山ぬ人まつわるる道を

とる歌

秋ぬるるかくての山のうらめにうき世を侘ぬる
おりひき侘るる人をとりひきとりてとる

ほる過ぎ

雲深乃元りたるとハやらるまやたゝと滝の面とのこゝ
女のおもひ出てゝ山てゝ小ゆるゝ滝あるに人乃
とゝひつゝをわけきハ立るゆふ小ゆるに
よゝん人ゝゝ次
呈引の山へよい風ハすゝ深の元乃神のひる時りゆ
涼閑のとゝ泡乃行ゝれ新滝ゝてゝよゝ
乃面よゝつゝ花のゝさやらにも見ゝみをゝ乃おもかゆる
たゝむゝれ朝ゝ

深草乃みゝと乃古國居乃日よゝ
文屋のやひひて
草つゝき蟲のゝふ新ひゝて居見者ゝゝふゝあハぬ
涼草乃みゝとの古時よ花人の頭ゝよゝ
ひゝまを出ゝゝ乃ゝ乃ゝ乃を涼閑り
滝よゝれゝゝゝ小世ゝゝゝひて
ひゝ乃山よゝの乃ゝゝ乃ゝゝ
うれゝのゝゝ風人古ゝゝぬゝゝあ乃ハ
かうゝ乃ゝたまゝなゝゝゝゝ滝

やまとうた

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

河原乃左のおとゝいまうちやきこれ[illegible]
のちゝ[illegible]
所のこゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

なさ人のやとりかりくるの郭公ひとこゑなき
旅の人と花ぞ宿るん自とやとりやく成りし物を

式部てのみこ南院の五月ごにとみそわ
うをいくくもはて女こそ男ゆわに
きる所よかのみこ流すんくる恋のうひの
ひとふ成ゆひつきてわをとわそれ
もしれを小てこれうく成なんりきつを
たりを歌

かとくるよ我を忘まの物あるふ山の霞をあり恋ふ沈
おこ此人のふゆわるゆまふ女ふりよ
屋まひをしていとよりく成よるる所すをさ
くる道まうるに斗所

よん人しらず

あるをたくきくあるこむわもたこる移人者る想
やまひとわるひるる物こちれものりけ
なくむれれるる人のりふきりり

うる歌

大江千里

あ秋こ夜風る海ま者こるもる所ハ春成わ

月まちわたるとてよめる

藤原こ[illegible]の[illegible]

露を形にあてゝ露和と思ひゝん我身を草に[illegible]ぬるわを

やまひしてよろ[illegible]成りぬる時よめる

なわひ[illegible]朝臣

ものゝ行方をしらぬ[illegible]を

うひのをしまてゝ行る[illegible]人をしる

いんとてまうわ[illegible]みちをゆてゆくよ

[illegible]の[illegible]ていまゝと成るれはよん

京りてゝ[illegible]りて母をとゝい

ひて人を待をゆるふらし

在原[illegible]

わうめ[illegible]ゆきのひちとて思ひこゝ[illegible]いるめれはよりとて[illegible]

古今倭歌集巻第十七

雜哥上

読人しらず

我うへの園なるくるる天川とわたる舟のうひのきりくり

思ひつるもの哉とゐる菅原や唐衣たちまくおもふ人くる

う物ぬぎかけまん唐衣たりとゆるすに入てといふ所

ひさかたの空のたゆとおりる花所ーもわすれぬあるうきまる

東ひとのいとくしかるものかいまう花きのも

むしろおれひとりとゆへるむさしの草はみるゝ衰ふる

先のかとうゆえ絶えて後の人よう人のきね
をしるべくとて歌をよめる

なわひろの乃朝臣

世のさとも義時はめもくるに乃なほまろうわ孤こ行
大納言みちいえふつ氏の孝おらつを
中納言は成るる時ようめぬうへのきぬ乃お
やの孝をとてよめる歌

近院の右乃おおいまう地さを
とりと人やそうん昔よりわみき心ようめてしあを

いとみ神の乃むまれ乃者ほうへもせていう
乃神といふ所をもわ後の孤ゆうう
かうみわたまい神われ孤こいひつ
うけとてよみてはうり乃歌

ぬる乃いまみち

日乃光を風のもというる神わめまと光義
二條乃義さもの乃まと東義やすむ所とす
ふる時よ松かりよ海てたまひる所はら
めの歌

なわひろ乃朝臣

おかりくや中堂の山もとくちかく世のことも思ひてる
五月雨乃舞ひあ歌ひてとあ所

よしかてくるむねさと

あまつ風雲のかよひち吹とちとし女の海きりとめん
五月雨乃あまくさ丸乃わらたわろを
入てたかなりんとうひてとあ所

ぬしやれとく白玉いてふくさくや喜と思人
寛平御時ようへのさまつひ給るをのことも

うめ歌も毒てきさいの亮はらとあうぎ
乃おなりときこえたまはわとわろ歌
くく人ともわつひてうめ歌おまへよりていて
ともかくといひぬまとれはきひのくわさて
こゝろみあわはくるといひ歌ハくく人のなう小歌を
ゆ一ゆきの乃ぶた
くく所

たゞれのこゝろやいつくあ歌きの歌乃浪ふかきよいそよ
世とも此ハくくまつひ歌ハよあ歌
くんけいかく一

かゝらぬみ山ぎはの杉木ゐれいはもよをさ成るん

方たゝへよ人のあ[illegible]海わたる時よあゝしの

きぬをあせてわる我あゝよゝひとゝよ

きのとも乃わ

うけ歌

[illegible]乃ゝ[illegible]乃衣ゝ[illegible]れとうゝわゝきゝもゝひゝ[illegible]

題――次

淡人きゝす

をゝゝくゝ[illegible]ゝ月ゝもゝあゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

我心ゝくゝゝあゝゝゝつゝゝ[illegible]ゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

なゝわゝひゝ乃朝ゝ

大ゝゝゝ八月をゝゝゝ

これ[illegible]ぬこ[illegible]ふるまひとふ[illegible]ふ[illegible]ひとよさけをの[illegible]ゆをしら[illegible]十一日の月もかく[illegible]なんと[illegible]ふ[illegible]おわりまみこ[illegible]ひてうちへいわるゆんと[illegible]れいよゆん

なわひ[illegible]れおた

あ[illegible]ふ[illegible]ま[illegible]ゆ[illegible]の[illegible]ふ[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]ゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

逸

世中をうらぬるものなくもうらちよりとあけくれの人のこれあ

寛平后宮きさいの宴の歌合のうた

あわひらのむらやま

白雲はたえまわけくるあらしかな

おのが時のうつりかはるを

みさをなりけりあらひあわらぬいそよけ

[illegible]

[illegible]

題しらず

ちよをへてうちもはらはれぬ[illegible]

我をもひさしく成ぬ住の江の松のひあ松いくよへぬらん

住吉の岸のひあ松人なくはいく世へにけるあを

樫ちいろへの、変ぬ代はうつりてもそらの松をまきくん

このうたはあるひとのいはく柿本の人まろの歌

かくして世をやけくうんもおのが花さたる松のなくる

たまぼこのみちゆくひとはなかりけり
はるのまつもさかりなりけり

藤原仲實朝臣

きよう海のおもてはあれどひさうふ溪のきぬぬぎすてる方
わたり海のうらにさせる島の浦をゆくあしたの浦山
和田の原よせくる波のたちくもみまさりにかりぬ玉の浦
あるいそ波たちくしのまたたのの浦をわたる
ゆくえさきいつくもしらぬ時をこそ
こゝぬゆくえもしらぬ時をこそ

藤原たゝのさ

思をおもひおきわたのくに海のうらの波ひくあわびのまくら
つゆ義

おきわたる浪のうへにはこゝのくまの松のもとにゝ夫城のうちの海
なかゝりの海にはかりのうらめ
難波のうらのあしのまくらあまとそ我いのねへてゝ
あひにあはるまゝ原人の住吉の海にてゝにしたへて
ゆくりもなく

住吉とはの方に津ともあるのすみ人志賀あつまといあの口

みにいへまうわ者る時こゝの志ほうて雨よあひて
よめ歌　　業こく

雨ふりたるのちまゝ枝々ゆをとなふかくれぬ物ゆうゝ
活日ふ川ふれりまゝたるゝ原日活るゝ
りそちといふすを見てゝまを結ひる原
あゝ川のあそる川へを吹風ふせ海ゝ波りとうゝる
中勢のゝゝ社家の池ゝ船をはゝうれおゝ
ゝめてあゝひる原日活日活笑ゝまれ
りまゝたわゝゆゝさるをつゝこゝうれおゝ

海さんと志ゝるれわにゝよゝくたゝまゝはゝわゝ原
伊勢
あゝのうへゝうへゝ歌の表ふゝふゝうゝまわといゝまゝ物を
あゝゝゝゝ川ゝ赤ゝそゝよめ歌
まゝせい法——
歌ゝそひゝさゝかゝへゝかゝゝと浪のをすゝ風ゝひゝる
布引のゝそゝそゝよめ歌
在原行平朝臣
こゝゝゝゝ瀧の白ゝゝゝゝひをゝゝそゝよゝゝゝゝ滝ゝゝ

常門の流入をとゝめて人こゝにまちて今ゝ
けふとゝめけるゝ所

なわひろめ朝臣

ぬさとゝる人ゝあるゝ白雲まつ立ちる袖のせゝ
ゝ乃流を天てゝ所歌

承均法師

たゝるあにひさたゝきる布をもゝ世をへてゝられどゝる人も
題しらず

神たい法師

きゝたゝるゝ布ゝ乃ゝ白ゝ乃ゝ袖ゝ乃ゝ白ゝ乃ゝ袖ゝ乃ゝ白ゝ乃ゝ袖

たくみなる

おちたつ瀧のうつくしきまつもわ老よりくるしく流れ清きたゞ[illegible]

たくみなる

風物のとゝのもさまの白やたいな紙へておつる水うつくしく

田むらの中に時々女さうれさまのひとり清原

風乃忘れ草

うつくしくうるはしくうるはしく

おもひ出の紙を題して秋くるあとさみしく

物人よ秋のきぬ[illegible]

三条乃町

思ひきり心の中に人を義ふまやおもひいれと義ぬきこゝぬ

春風乃忘れる花をまあ

時初一時ちのちいちくへて世いまるまやとこのつゝ

春風乃忘れまんあくもせそりきけ面

清くゆき

板上こう紙のう

かわて清と山岡のいれよれなきまうわれ秋の

ゆきハ

古今和歌集巻第十八

雜歌下

[illegible]

[illegible]

世中に何かつもれるあらしの山の関そゝかぬせゝかぬ

いくとせ[illegible]あるらむ延喜の御時と思ふ

[illegible]歌の御書に[illegible]世中[illegible]

小野[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

はるのゆき　なのこころざし

歌人いろいろ山ざくらをこそ思ひ出でたるに、雪のあけぼのの花のうへにみるこそ、
又なくめでたけれ。

えいそたづねやといひ侍りしかば、

ゆめわ

小野小町

花ぬきに分る雪の白玉はたれ思ひ出でいとふ人とて

題しらず

あらはれてふるとはなしに世中を思ひ捨てぬかりの袖

よみ人しらず

あらはれてふる雪の数とふをく袖は昔ばかりの涙なりけり

世中のうきもつらきもなかめつるまつ山ばかりはあはれなりけり

よもすがらふるとも見えぬ雪なれどあけてぞ見ばかりの袖

世中をいとはしとのみ思ひ捨てし山里ハ物のさびしきなりけり

これさだのみこ

白雪のふりてつもるひくらしの山はさびしさまさるなりけり

ゆきのいとはしきかな

三わにくんきてさもいとくせ中ハ浪のさはぎ風そ吹く

いたくふるよ我はいとゝん心ぼそくなれ

うせい

世中は昔よりわやはうちもせん数ひとつのあにる所ろ

よみひとしす

なれ中我いとふ山への草木らやあ散れ乱れ色に今ん

みよしの山はあるくさ富もろ世のうき時のくれふせん

世よ如きはうきまろ涌れ人よりはいの侍たかるてん

いろふん出る中よりはまほかは世のうき事はきこふほん

見渡の山はまもくるれなんうき世中はあるひとる

世中はうきくよりのきあ奥山のはなふまろ雪ゆけま

おもしひなきうこ

そのこ面のよりな

なりきあんこ数山嶺へいんまは思ひ人ようほうう懐れ

山のかう　流もんほりりる歌

九河内ようま

我捨て山よりる人ふそもな城う数時は法ちゆるん

物おりひるる時いときふ花こを入てよあふ

ちよ何おひいんん竹のれようきみ　三月ふ世とはこうる

[illegible]

くみ人きこえ

[illegible]行のうまつりごとを学ぶうなく

本ふもあるべきにこの御行のよろこびに勤めへる也

ほのる人のいとくたりのみ[illegible]也

わが身のうき世事と歎て人のあさへるのかる事

たぐひのなきなるべき世なる時よまへる歌

たゝむしの歌

思ひや歎のもれぬ[illegible]へあまれるかるいきわせんとハ

四むしの侍時よ事にあるてつの國のすがと

いふとり侍よ[illegible]侍るに春のうちる侍

[illegible]人よほのうり[illegible]歌

夜原りの歌

わるくるとふ人あるハ決まれ蟲よほれつまさるよ

[illegible]近ぬ[illegible]侍る時よ[illegible]ひり

をこせるわ[illegible]よ[illegible]つりかな

なのくるの歌

あきハのをとつ秋とハ思ひまさる人と為ぬさるは世

ほのさとけて侍る時ふあは

平さうてん

年世をふることさせわとも人をしみくるなるゝ我身はそれとなく
あわとそぬ今まいまのかとりわうれとしくく思いけもふ

みそれ哉乃たちさきはるゝ成宮はへつゝう
まつゝはとそとけてはるゝ時よあふ

えやちはきくれ

けくゝ見のとゝにちうはまの山の伝を聽
時なわをふ人乃ふりゝ時をくなわてあけく
なをへて入侍ゝれなけおもふくゝ侍ひ

なきこゝ成思てくらあふ

清原姫のやふ

ひとわふき若ハまもようあまをハされとくらう物思ふ
かつゝふ侍ゝる時ハ七条中宮と言を侍へ古
を侍侍ゝ

伊勢

久方乃中まひろゝとあれ元ゝ成のうたの心
紀乃とゝさうゝ
時ゝむ乃そふむけせんとそゝふといひをくれ

時よりてうしふまつわあるときそ夢みるまて
ひえさわられて侍りし歌

なつかひの乃殿下

今こそ思ふ所多物と人まつ里侍はとをへ行わ
これをは見ぬ人のもとふまつるまあるひろる侍
しかはなをのといふ所を侍るに宿
とをつりんそまつわたる所ひとの此
物りとなりけまは雪いとをつるまあて
みむろよ海わいるまて杉ひ人ふ所り

侍るくるしてい物りあしてをつわまのうて
きてよひて夕をつわけ面
忘れてハ夏とと思おいはや雪みるて光侍らんハ
深草乃所とふすて侍て京へまうてくて
うこなわ人よりひて侍るわ風
年侍へすこうさを侍いていふハ深草をとや侍なん

返

よひ人きて侍

雪となるいうつと雪侍へ人わいるやハ雪ハこ
毛しいる

我を見るよりはやうにきめ成るつのあり成るき
こゝろうこゝあるえもむ　おもこあわきる成るの
おとこゝこゝろあるよ　れはなふめるつりてるよ
ゆるわあまふ成てよ　えてだこゝにつゝはせる
るゆるるんいるふ

逸一

なふるるうむべきるもおんをつこ成るつのあきとかなる
とえるるふべき人をなわれを見へむるるゝ門をせわるえ
るるたちれ久へるゆるこゝわるゆるるよ

るみてゝゝるゝ

人をとゝ

人をとゝひるうあわるゆるにあい
うるんるゝ神るゝあ新
方をひるゝゆるゆるるん思わるわほるあるゆるんあるるわ
むゆ成れるあゝるわるゝゆるゝるゝきるゝわるる
時るゆるわるゝ成るるなのる思ひいこれ者の
ゝるくなんほる神るといひるゆるあわにあるる

えらう過ひ者とつよふたのもゝ程と言ふはあらじと思へ

為

宗岳大頼

元伐のこまりひさしちれ白山ふるかはゝ雪ふきゆる時あるう

成るる人ふるかはゝ

きのつゝ程茂

おもひやるこれ白山さらぬ程も雪にはぬるゝ

題

淡人さらし

いさらてゝ我世ハ金ん寸るやうもあれまもくも

我庵ハみるの山をと走つくハとゆきまを枝たるとゝ

わ庵ハ都のうちさらすむ我ら山と人ハいるわ

きせん法

みゝ人

あれまるわ衰ひくれ宿なまやすん人のをとうまもきぬ

なるへまるわ苦るる時よりのまたる恋よ女の恋

ひ茶るる伐きてそみていれるる恋ふ

よ一人ふまもねさ

ふひ人の住へき宿と見るふ人ふなを記くるふ肥このてとそ

ふりをふまるふきて見るふ京に住と称わ

二條

人のもとに侍りける頃

[illegible]

[illegible]人

[illegible]

世中いかなるさまにかわるとも人はゆきとまる所を宿とこそ
思へ故の郷の風はいかなる所にか移るとも人はわが身
風にしたがふ

家成卿の[illegible]

伊勢

あだし川ながれもあらぬ我宿をせかるる行末をなげく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

たうしんの所つ以てまうしたんはきの所

ぬちいれたるうさ

あら竹のまうきうしんさうの歌乃おきあそ歌を思ひけるか

色しるし

風つけハおきつ白浪あるこ山歌ばまや見うひとわこゆんん

うたん人しるし

あの人このうしこハせて大和國あわくる

人のもひあにある人すんわうわきるこれ女歌

なく成て歌もまた成りあひこのおとこ

かうちの国の人をのひきてかよひつれなる

乃こ成ゆきくるわさるをけまたもはしき成なる

しきもみくさかうちへいくことふ男のんはとく

小つていくこ色わくれてあやしと思て

なきまふふと心もやおきこうひて月の面白

うわきる歌うちへいくまもしてせんさいの

なにかくれ歌ハ歌みくまて出て歌き

なくつて歌て歌て歌談きまくれ歌を

きてて歌ちわみりへもまくれぬふくわと

あんいひけるへる歌

たゝみこゆるをとわかの衣たつこの山あわらんなく
まひくまん時思へとゝはかちこわ行思もまつぬ流をとゝむる
貞觀殿御百番集に山のゝわはく行るゝと
とゝせたまひしをれは流てたゝくまつわ雪
文屋あわすゝ
神ゝ月時雨降をゝくるゝ山のゝ紅葉のゝ雨と流
宮平殿御方たまはりて屏つのそゝたく
まつをけ
大江千里
あしゝゝのひゝゝわ鳴くれて時雨ハやゝの上まてきてこしつゝん
梅ちりぬ
欲めしゝゝる時ゝ思ひ出ん
むくふきはゝゝゝゝまきゝゝ
伊勢
山川のをゝふのきてくもきゝ流ゝ力をゝゝ

古今俤被集巻第十九

雜歌

短哥

[illegible]

漢人一首

あふことの まれなるよ なれひろめ わるまいつるに
ほのぼのと 人の見 もてとりふ
おりへなる あふことをしし あれども 人をうらん
わるるに おもひいまを なれひて 思ひいまを
いそうよ なれあへる也 ゆくすゑの たゆる時なく

かくるるに　思ひ入れて　けふはあめぐ
おりへども　えぬるれば　雨乃　思ひ入て
あり明の　山ぢたのれ　こゝろ雨を　たゆまぬ雨を
たまにいも　あひてこりん　きよいそは　人ぢわぬへん
すゝうめれ　ゆへよるれば　ひとわめて　あい雨くゝと
ふるきのまわ　せんとへみる　ふりて出て　たちやひくへ
ちゆうえの　衣乃うえよ　年くゝ雨の　きふはあへく
おりへども　おなけるまぬ　春ひくゝ　まにも人よ
ひのれとおもへハ

ふるうてまつる時のもゝ雨社のみ
ゆゝ雨家

うゝ

ちりやぬる　神のみそゝ里　くゝ雨竹の　世にもたゝひ
あうひの　雨とゝの山乃　ゝ雨ひくれて　おひひくれて
ちゝれ乃　やもと雨よ　さゝみけて　山ほゝ雨乃
なくゝとゝ　れも雨さあて　うゝふまよ　たてゝの山乃
もみちゝ雨　乃えのゝ志のゝ　神世月　きくまくて
みれ雨の　庭もゝれよ　ぬゝ雨乃　おきくへ石
とゝふ　時よつ雨ゝ　あゝれゝふ　こゝ雨いひて

思ひのこす　ちよにとゝまる　世の人乃　おもひする哉
みの哉　もゆる思ひも　あらはして　わびなるこゝ
ぬちうも　を祈るんも　やらく哉　志ゝ哉ゝ
すへくまの　おりせうえん　まきくの　中よりひとを
いせのゝ哉　浦乃ちかひ　月乃ひかつめ　と祈りひまこと
たま哉の　乃ゝき心　思ひあへと　祈あ哉
と祈へて　大宮乃　久ゝ乃　ちかるわん
はゝかへて　かへりみもせぬ　わやの　志のゝあるつる
いゝ海あゝ　ぬる雲の　もわやゝぬん

春うゝにゝ乃ゝ哉ゝ

春日忠孝

哉竹乃　哉哉　なりわせて　いりのぬゝの
いゝゝ　おゝ　のゝへまゝ　ほゝ祈せゝん
あわきゝゝ　人まゝゝ　う祈ゝ哉　身ゝ之ゝ
こゝ哉ゝ　あまり　ゝ哉ゝ　すゝの世ゝの
あゝゝ　ゝゝ　ゝ祈ゝ哉　ちゝ
ち哉身に　はまゝゝ　とりゝん　哉を思へい
ゝゝゝ　ゝ哉ゝ　ん哉ゝ　ち哉ゝ

おもはぬに　ひとりのこる　かくこそあれ　かくこそあれと
てをひろひ　ちりぬるもの　月成　をたまくらの
ゆくすえに　あさむつまして　みやこへり　月
みきのもり　おもかげを　うれしきもの
なつにさも　嵐のうせも　きこえわき　とのの山
ちりけまし　雲のひろふ　たなびられ　夜ふかのきく
なぶるとて　秋の時雨よ　うををし　みぞ雲まう
せめて　ふる　みぬるひき　月なるに　つれる年成
ちるせれて　いなのむつよ　成ふるわ　こゑまうまる

わるくも　おしめのひさへ　やらけまし　月ハやしくて
としつき　ちりぬるさ　なるれば　なるれば
なるくへて　みるの浦よ　ふるのたるや
おりまん　さひくよ命　おりくれて　うれしくなる
ちるる山　しるいちるく　なるあぬも　をとりの流乃
ちにきて　おいとちるの　ふくわも　志やちよ成
わるくはるん
志る世よ逢坂山のいくるつうれわとれもひろる成
みるのなるうる

九河内船橋

ちはやぶる　神の御代とや　けさこそは　くもゐとあへと
うちなれし　名にこそ　ふるの　みすたれ　山の
山あゐも　さむくなりぬと　あわゆきは　雪のをとけて
ふるさとの　あれたる　ふるの　いやうつもれる
庭のたまゐ　むすぶ　ゆふ　みくまの　うへよりかけて
ちる雪は　清もわくて　あしたの　辛崎あまも
すくつるか

七条の御息所せたのひさをのちにかくる

伊勢

むかしをも　あれもまさる　雪のうちは　ひとへさはえ
世のほまも　あるかなる　人ぞして　ふんるふく
かなるまも　海のいろの　くれぬ年は　わまるあれ
間ふく　秋のもみちと　人くは　をのちるく
まろれ　ふ　ふ　ふ

題しらず

読人しらず

うちわたしをちこち人も物まうでしたれそこにぞ家なく
さきるはなにのそるうも

西行

吉野山のへまつさくらとあるぬ花もひかりたたのる
色ぶかきれなるまもや

題しらず

うの花川みるかのへさふてあるはなを実にへてみれひ
ひとりとあふらとれ

法師ゆ業

えんうひうきれ山のあ業をのいろ神ふ月四南の面
のううれなるまを

源清有

題しらず

読人しらず

梅の花みるきつまを常のひとくくとひもをる

素性法師

山吹の花いろ衣ぬやたまとくとちくへひらのしは

藤原敦行朝臣

いくとれ成つる成いら郭公そのたを成れるくよ

七月六日たゝかうの人々歌

荻原うきすを

いはもとまで心をくだくあまのはらをとゝのやとんん

影一ゝ寄　九河内ゝつを

むつとものゝくつるかくれぬるいつゝは梅のゝ一てふ

秋のゝふ庵めきたてる女郎花あ昭一ゝ花ゝ　傍正遍昭

梅ゝ花のゝたりゝ女郎花いつまでもいつまの人ゝ法ゝゝ　ゝみ人ゝ次

梅雨のゝれてゝゝ秋ハを見花の為うゝんゝゝれ　すれ

むとゝみゝゝあんとゝはゝ女郎花ゝゝふのゝゝ庵のゝにゝ　ゝゝ

寛平御時きさいの宮の歌合のゝゝ　在原むねゝゝ

秋風ゝゝゝゝのゝ萩ゝ為ゝてゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝとゝゝんとゝゝゝ日とゝゝゝ乃家のゝゝゝ

風の吉我吹ゝゝゝ我ゝゝゝゝゝゝゝゝ

つゝゝゝ原　清原ゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ花ゝゝゝ

題　しら川

いろ〻に祈つゝ[illegible]の神さびそなる我いろ[illegible]
枕ゝわ流ゝわ恋のをゝしかれ[illegible]せんゝ[illegible]ゝ[illegible]
恋しさかゝ[illegible]ゝあわときけゝそれを祈ともなき心ちする
あゝなやゝ心ゝそゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

題　しゝ

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

平貞文

[illegible]

秋のよ素なき庶のいきとへさふわる恋のひとをく
みつね

[illegible]

[illegible]

たつたつ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]ようめ　心もたのまれて人をあくにいうけるてふ　かか
いとくちをしかるまじきもののひそかにかたらひ
[illegible]ふ　[illegible]ものの[illegible]ひとも我ゆへ人のつまをうばん
[illegible]ふ　[illegible]人まもりのくるしさやく家来ばかりひとわ
[illegible]

卓中奥

[illegible]ふ[illegible]成ぬきに[illegible]ばかりて月なをなを
[illegible]

[illegible]の[illegible]の山[illegible]ほとゝぎすとなんと思我ゆかしふ
[illegible]

なりき

雲[illegible]あるあさ[illegible]の山[illegible]あさまし[illegible]や人の心をうたがふ[illegible]

伊勢

難波ゆくなりふね[illegible]つくゑ[illegible]と[illegible]我身ばかりなふたとへ
[illegible]

よろん人[illegible]

きまあなれとふ[illegible]ふ[illegible]きくかるものの[illegible]

おもゆ世

何うふ[illegible]の[illegible]の[illegible]ん[illegible]ふ我ひとわ
いとゝ[illegible]ゝ[illegible]

くう

ようあらう教方はいのらぬとゆへさいのふすぶ也

題　しらとり　うぬさ

祝ことぶきの間ゑんや海ようはさいあけぬ牡丹ぶ

大満

みけぶき所山とうく成ぬまにほつつものうまつれる

うん人きつす

なけさ成ぬ其ほはさは是の光ひふく成ぬへる也

人ふること成りぶとにるひそあふこなれうわひけぬ

よのまふいそ人めるうる月ぬしれ物思ふ海ふもあ水

う人ふとそとは世ふうるかくはまいあふひきてんあふこさる

世中ぬうれそひとに勇成ぬけハ深さ苦ふうにくぬふ

世中ハふるふと思ふんふら年人ようみふぬハ

うん人きつと

なふ海ぬ勇の流ぬ老ぬ乃八年ぬ思ふんふうぬふ

ぬなりつせ

みふとそうん人成ぬふ流ぬふふるふ

ふけと

[illegible]

[illegible]

梅の花[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

義作やくあれさうゝ山ゝ
[illegible]
この國きの[illegible]川さゝ[illegible]
こゝ[illegible]ハ元慶乃[illegible]
[illegible]世ハさきゝ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]

[illegible]の[illegible]の山をたゝ[illegible]
[illegible]今上の[illegible]

大伴のゝ[illegible]

東歌

みちのくゝ

あふくまきゝたちくもわけのぼりしまさぶ人
[illegible]
わをこを新やなる[illegible]
[illegible]
みふくひゝさゝせ[illegible]
もみ川のれハ[illegible]
[illegible]

[illegible]

こゝろぬしいたるつせめこゝぬしなれ法

ひとちうた

ゆくいとのみもすけまとけあれと君らみけまとけ新

つくいもの花の名新い花つもわもつるもしぬもの人ものも

かひうこ

ひうこ城さやふもんつかくるれふくこゝろわ姫ふるやの

甲斐の国の孫をひこう山うこ筒を人まもみやこうこやうん

伊勢うまこ

[illegible]

藤原とう敬さの名い

ちや花ものの社のひこ花ものの世ふともこいふ

家ら称流本之年代書入以望雲城斎今別玄之

美濃第十　物名部

ひこうこ

ゆきゆふ

[illegible]人い意味ひこう山の色きひこうひとこむ

夜部五下　定帰上

かつらもとの清行下

うめとの　あるくるま

うきめ鏡ようめとのそのうれゆく雲れあるくる山のすそよ

これうい水のをのみとのうめとれよりわあるくる人

うきわたるうき雲ほ時よりあ歌

桂宮下

巻才十一

奥山蕨の根一けきつる雪下

勝尼

かつらもとの清行下

うめとの　あるくるま

うきめ鏡ようめとのそのうれゆく雲れあるくる山のすそよ

これうい水のをのみとのうめとれよりわあるくる人

うきわたるうき雲ほ時よりあ歌

桂宮下

巻才十一

奥山蕨の根一けきつる雪下

[illegible]人をたのむ心は大井川なる所水まさりたるに
わきてこしあまりたる心のまことをたのみたるは出しも意をたる
[illegible]

巻第十三

こひしくはきてみる我れなれ人性の下

いぬる井とこの山なるをいさや川いさとも人はつかふしれ
こゝろうしあの所人あれ見えるのあるのあるの
うめにたまへふと
うめ見えるまつる
山ちかの吉野の滝のをとにたる人のこゝろへく我こひめ

巻第十四

おもふてふ人のこゝろや秋をへく下
うと我わひあれわとるめてみるを我こひ
たくまつりて
わをこうくへなるひをさうふのくもにしるまひ
[illegible]
[illegible]とはるる学んとふん下

ほゝゆき

[illegible]

古今倭歌集序

紀淑望

夫和歌者託其根於心地發其花於詞林者也人々在世不能無為思慮易遷哀樂相感生於志部形於言是以遇春鶯囀秋蟬鳴者其吟懸可以述懷可以發憤動天地感鬼神化人倫和夫婦莫宜於和歌倭歌有六義一曰風二曰賦三曰比四曰興五曰雅六曰頌其來久矣傳播之間樹上蝶無由折香發歌遥物皆有之

自然之理也於西神也七代時質人淳情
欲無不和欲未化遠于素盞烏尊到出雲
國始有三十一字之詠今反奇之化也之
後惟天神之孫海童之女莫不以和歌通
情者家及人代以風大乾長歌短奇短頭
混在之類雖非一源流漸繁於雲於拂
雲之樹之自可當之煙落天之波起於一
滴之露玉如珠波津之什獻
天皇富備川之篇天子或事問神異或
與入幽玄但見上古奇多存古質之語未
為耳目之驚況為教誡之端哉
天子每言感義景況治民頻賓延有就和
歌君臣之情由斯可見異愚之性於是和
歌所以治民之欲擇士之文也自大津皇
子之初作詩賦詞人才子慕風馳塵稜技
漢家之字化我日域之俗改和歌
漸興於世之佛教大美哉振神妙
之思獨步古今之間有山辺赤人哉並和

秋仙也之所業和秋去孫〻不絶及後時
家流溺人貴奢淫浮詞雲興彩流泉涌真
實皆為其花孤榮也之好之〻家以此為
志者〻徒九食〻為以此為活計〻孫故
半為婦人〻去歸道大夫〻前進代春古
風未絶二三人然長維不同論以の舟也
山僧已尤得秋旅然之詞花而少實如論
畫好女流動〻情之原中將〻秋其情也
修之河水之如蘂花旅少彩色而有薰香
文雖巧詠物強其旅逆儀如賈人〻美紙
之字法山僧之撰之詞也麗而肯尾淳滯
如望秋月遇曉雲小野小町〻歌古衣通
姫〻流也然艷而無気力如病婦〻美花
形大友黒主〻歌古樵九夫〻〻沙地形
有逸興而旅甚鄙如田夫〻息花如此し
小氏姫流聞者不可勝数其大度皆以艷
為基不知歌〻意者也俗人爭事業利
不用詠和秋然武〻〻雖貴兼相將冨俗

金鐵而骨未腐亡中名先滅亦世之適為
授世授生者作和所〻人而已何去語近
人耳義慣神祇や青雲誅　天子詔侍臣
〻撰萬葉集自今以来時歷千代數過百
年之後和歌奇妙未殺搖動風流必賞春相
撫慰如在納云而皆以他戈間不以斯道
彫
陛下治宇十余九載仁流燎漢洲之外惠
茂鞭波山〻法渕寰為瀬〻春〻南口
砂長為巖〻砂洋〻滿耳思継既絶〻復
彫與少廢〻是寡詔大内記紀麦則御書
所新紀麦〻前甲斐少目凡河内於恒去
御門府主主典忠岑小名獻家集并古来
舊歌日漢万葉集亦是重〻詔新類亦有
〻奇勤為二年矣以日古今和歌集長等
河内長屯〻靡秋夜〻長咒武進恐
阿偽〻新逸懲戈藝〻拙適遇和歌〻中
興以示長屯〻春是嘗年人九院没和歌

不孝斯武于時延喜五年歳次乙丑四月
十八日辰巳〻等謹序

此集〻所称雜説〻多已依師説之
加了見為倫博学〻説本不能尤眠
〻不拾寸自為〻近代俗乗〻好之以
出生〻共諸称〻識〻秘事可謂尤
〻麁姓不可用〻但如此更撰只可
況之多〻所好不可存自他〻差別
志同者一〻〻
貞應二年七月廿二日　戸部尚書藤　在判
同廿八日〻讀合了出入義字年

付于嫡孫可為將來之龜鑑